

滋賀県精神保健福祉協会だより

龍谷大学共生社会研究センター二〇〇九年度 第二回シンポジウム 報道と精神障害を考えるシンポジウム ～共感する報道を求めて～

滋賀県立精神保健福祉センター 副主幹 佐保田 圭吾

「報道と精神障害を考えるシンポジウム」のシリーズとしては、第二回目となります。本年度は、龍谷大学共生社会研究センター二〇〇九年度第二回シンポジウムとして、龍谷大学瀬田キャンパスで開催されました。以下その概要を紹介いたします。

開催日時 平成22年1月14日(木) 13:30～17:00
場 所 龍谷大学瀬田キャンパス 2号館1階2-120教室
参加者数 一般市民、学生、教職員、
関係者 約110名



会場風景

【第一部】十三時三十分～十四時五十分 ……「報道の現場の声を聞かす」……

◆ミニ講座◆

「超入門」精神障害者をめぐる問題とは
 龍谷大学大学院社会学研究科大学院生により発表されました。

精神障害者をめぐる精神病の特徴や社会状況、歴史などを分かりやすくコンパクトにまとめたもので、シンポジウムの共通理解のための発表です。「ブラックジャクによるしく」という精神科病院を舞台としたコミックが紹介されているあたりが、学生さんらしい発想が感じられました。

◆講演◆

「精神障害者をとりまく社会関係の歴史」
 愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科教授 橋本 明氏

明治期の精神医学、民間治療、私宅監置から近代化の進行がいかに精神障害者の社会的疎外として一般化していったか、ライシャワー事件以降の国策としての精神科病床の急増と入院中心主義の進展、宇都宮病院事件等を契機に精神障害者の社会的疎外から、ノーマライゼーションへの移行の進展が図られ、精神障害者の社会参加の必要性が少しずつ進行したことなどについて豊富な資料を踏まえた講義でした。

近代化が非理性性を社会から遠ざけ疎外するプロセスであることを分かりやすく説明され、近代的な価値を重視する世界（「コンビニ化の世界」）、利便性のみ追求して他の価値を顧みない世界がどこにむかうのか？と言いつ問いかけて締めくくられました。

◆問題提起◆

「家族として思ふこと、考えること」
 滋賀県精神障害者家族会「鳩の会」理事 井上 カズ子氏

家族が精神病を発症された体験から始まり、リハビリから社会参加、その間の社会的変化や法律の変遷。身をもって感じた報道から受ける影響について、詳しく報告されました。実体験に基づき日頃から感じていること、思うことを率直に述べられ、アンケートでも会場からの反響が最も寄せられました。

【第二部】十五時〇〇分～十五時四十分 ……「報道の現場の声を聞かす」……

「真実を伝えるむずかしさ」

朝日新聞東京本社論説委員 岡本 峰 子氏

●聞き手

龍谷大学社会学部「コミュニケーション」学科教授 西村 敏雄氏



朝日新聞
東京本社論説委員
岡本 峰子氏

事件報道の実際、匿名実名問題特に実際に記事にするまでの報道基準と鑑定や診断との関係、裁判員制度とネット・ブログ報道における既存のマスコミにはなかった問題など幅広く発表がなされました。西村教授からはネット・ブログ報道等について現状と課題について質問、問題提起がありました。

【第三部】十五時四十分～十六時三十分 討論と質疑応答

司会

龍谷大学社会学部コミュニケーションマネジメント学科

准教授 小黒 純氏

シンポジスト

愛知県立大学文学部社会学福祉学科

教授 橋本 明氏

滋賀県精神障害者家族会「鳩の会」

理事 井上 カズ子氏

朝日新聞東京本社論説委員

岡本 峰子氏

コメンテーター

滋賀県立精神医療センター病院長

辻 元 宏氏

シンポジスト同士の質問意見交換に始まり、会場からも質問意見が相次ぎました。

おかしいと思った報道には、当事者団体などから意見苦情を継続して発信することの重要性、二十年前に比べて

社会の見方が変わった。他の障害と同様に精神障害者に対する見方も変われずはずだ。と言った意見や、現状では法律的にも特別な疾患とされている。精神の障害も、さらに一般化していくこと、精神障害の一般化が必要なことなどの意見が出されました。

総じて、精神障害を奇異に捉えることと自体が、既に精神障害を偏見に満ちた疎外する「視点」であること、病気ではなく他の全ての障害と同様に「生活障害」であることを理解すること、当事者も家族も医師も、病名からではなく、一人の生活障害をもつ人間として理解し自覚することから、偏見や差別を克服する道が開けていくのではないか、などの討論がありました。



龍谷大学
コミュニケーションマネジメント学科
教授
西村 敏雄氏

アンケート結果

63名より回答があり、有意義であった。勉強になったとの記載が多かった。目立った内容としては、初めて精神障害の問題を知りました。精神障害者についてネガティブに感じる報道を読んできた気がする。家族の方は大変苦労しておられる。解決に至るにはまだまだ難しい問題がある。もっと精神障害者の事について知りたいなどの回答が目立ちました。

日本財団助成事業 「滋賀県精神障害者家族相談リーダー研修会」 を開催しました。

滋賀県精神障害者家族会連合会「鳩の会」理事長

川並 正幸

二月九日（火）滋賀県草津市のフェリエ南草津において滋賀県精神障害者家族会連合会「鳩の会」主催、滋賀県精神保健福祉協会後援による「滋賀県精神障害者家族相談リーダー研修会」を開催しました。

家族会、市町、病院、作業所の方など関係者約40名が参加されました。

午前中は滋賀県精神医療センター病院長辻元宏先生の講演、午後は佛教大学社会学部准教授篠原由利子先生の講演とロールプレーを行いました。

辻先生は、「統合失調症と脳」「精神保健福祉法における福祉・医療」について講演されました。「統合失調症は脳の病気である。だから脳を調べなければいけない。欧米ではアルツハイマー病の確定診断のために脳の一部を採取したり、亡くなられた方の脳を保存し研究されているが、日本ではそういった取り組みは無い。」また、「日本では統合失調症の概念がいまいちなため正しく診断されているか疑問がある。」など驚きの言葉や「精神疾患の病名にこだわるのではなく、生活のしづらさ、生活障害としてとらえて、生活障害とつきあいながら生活することが重要であり、最低限の服薬と、過不足のない栄養の摂取、十分な睡眠をとり、適度の運動をするといった、規則正しい生活がストレス耐性を高め、病気の回復には欠かせない。」と話されました。

また、法律などの制度面でも精神障害は他の障害に比べて、大きく差別されている現状を説明されました。「三障害は平等である。」といったながら、その基となる法律において、身体・知的障害者は「福祉」という法律で守られているが、「精神保健

会場風景



福祉法は「福祉に関する法律」であって、福祉ではない。診療報酬についても内科などと比較して格段に低く、欧米諸国ほどの短期集中治療にできない。」と話されました。

午後からは篠原先生が、「この研修の目的と内容」について説明され「精神保健福祉に関する相談」の講義をされました。

「相談を受けるときは、相談者のペースにまきこまれない、できることとできないこととはつきりさせる、個人が相談を受けているのではなく組織で受ける、相談者の話をしっかり聴きそのままを受け入れる、自分の経験や思い込みは出さないなど、一番重要なことはプライバイシーの尊重・秘密の保持です。同じ家族が相談にいられても別々にいられたときは、「先日息子さんはこんなことを言っていましたよ。」「お母さんはこのようなことを希望されていますよ。」などは絶対にいってはいけないことです。」と話されました。

その後ロールプレアの演習をみんなで学び、その後四グループに分かれ、テーマを決めて実践しました。多くの方がロールプレアは初めての経験でしたが、いざ実践になると大変熱心に、そして熱の入ったものになりました。

各グループがロールプレアの発表をし、先生が講評されました。当事者が到底できないことを相談に来た事例では、「本人に夢を持たせるのではなく、夢を聞く。本人もできないことは知っている。」また、一方的に話す相談者の事例では、「10分以上話していることとまとまりがなくなるので、時々「○○のようなことでしょうか」と確かめる。ただし、話をさえぎるのではなく感じよく割り込む。」などと話されました。

朝早くから終了予定時刻を過ぎる長時間の研修でしたが、先生方や参加された皆様、大変ありがとうございました。



講師
篠原 由利子氏

講師
辻 元宏氏



グループワーク風景



Working together for a healthier world™

より健康な世界の実現のために

日本で最も信頼され、最も価値あるヘルスケア企業になりたい。

ファイザーは「新薬」に世界最大の研究開発費を投じています*。
高血圧症、がん等、多くの病気、そして、治療薬に恵まれない病に打ち勝つためには「新しい薬」が必要だからです。

* 世界企業のR&D投資額ランキング(2008年 欧州委員会まとめ)

ファイザー株式会社 www.pfizer.co.jp

聖ディンプナ伝説とゲール

橋本 明 (愛知県立大学教育福祉学部教授)

今回から「精神障害者が憩う街・ベルギーのゲール」の具体的なお話を始めます。巡礼地ゲールの発展に深く関わっているのが、この街の守護聖人とされている聖ディンプナです。まずは、聖ディンプナにまつわる伝説を紹介したいと思います。話は6世紀末のアイランドから始まります。主人公はアイランドの王様の娘ディンプナです。

妻を失った王は悲嘆に暮れ、妻によく似た娘ディンプナに結婚を迫る。ディンプナはそれを拒絶し、司祭のゲレベルヌスを伴ってアイランドから逃走する。船でアントワープの港に着き、さらに陸路を進んでゲールに達する(→図1を参照)。だが、ここで隠棲していた彼らを、追ってきた王の一行が発見する。最初にゲレベルヌスが処刑される。王はもう一度結婚を迫るが、ディンプナはやはり拒否した。激怒した王は、自らの剣で娘の首を切り落としてしまう。これは6世紀終わりの5月30日の出来事だった。

ゲールの住人たちは二人の遺体を埋葬した。やがて彼らの墓は、悩める人々が癒しを求めて集まる場所となっていく。これら敬虔な信者の敬意に応えるために、もつとりつばな棺に二人を安置することになった。そこで、墓を掘り起こしたところ、粗末な木棺に納めたはずの遺体が、この地方では見かけない純白の石棺に入られていた。人々は天使の仕業と考えた。

ゲレベルヌスとディンプナへの信仰は、遠くの街の人々にも及んだ。クサンテン(ドイツの低地ライン地方の街)からの巡礼者の一団が、毎年ゲールを訪れていた。ある時、彼らが二人の石棺を密かに盗みだし、荷車に積んで故郷に持ち去ろうとした。ゲールの住人はそれに気づくと、ただちに泥棒を追いかける。泥棒は逃走しやすくするために重い石棺を地面に落とした。棺からはゲレベルヌスの遺骨の大部分が持ち去られたが、ディンプナの棺は無傷のままゲールに残された。

この事件のあとも、ゲールへの巡礼者の殺到が続いた。そのため、ディンプナへの崇拜をさらに高めるために、その遺骨を銀製の箱に移し替えることになった。その移し替えの儀式の日には、高位の聖職者もゲールを訪れた。多くの貴族や住人が見守るなか、石棺が開けられた。すると、ディンプナの遺骨の脇には赤い石が置かれ、「聖女、殉教者ディンプナ、ここに眠る」と記されていた。

以上が聖ディンプナ伝説の概要です。私が参照しているのは、ベルギーの歴史家で聖職者のP.D.カイルが1863年に出版した、ゲールの歴史に関する本の中で引用している聖ディンプナ伝説です。一方、カイルは17世紀に出された『聖人行伝(Acta Sanctorum)』を参照しているようです。さまざまな聖人の業績集とも言うべき『聖人行伝』に収められた聖ディンプナ伝は、13世紀にカンブレ(フランス北部の街)の聖職者が書いたテキストにさかのぼり、このテキスト自体もそれより古い伝承にもとづくものだと言われています。実に「伝言ゲーム」のような話なので、聖ディンプナ伝説にはどれだけ信憑性があるのでしょうか。

たとえば、17世紀のアイランドの歴史家で聖人伝記作家のJ.コルガンによれば、ある古い資料に出てくる「逃亡者のダイヤモンド」という聖人は、アイランドの聖女ダムナットのことであり、彼女こそが聖ディンプナだと。つまり、聖ディンプナがアイランドから逃亡したのは史実だというわけです。しかし、20世紀の研究者たちの多くはこの説に懐疑的です。むしろ、聖ディンプナ伝説は、ヨーロッパの民間伝承によくある「妻の死後に夫が一人娘を思慕する」という形式の、一つの変形に過ぎないとみる研究者が少なくありません。

ただ、聖ディンプナの出自が史実か創作かはさておき、この伝説はさまざまなことを暗示しているようです。

一つ目のポイントは、キリスト教徒と(キリスト教から見て)異教徒との遭遇です。聖ディンプナの出身地とされるアイランドは、5世紀に聖パトリックたちによってキリスト教が伝えられたと言われています。聖ディンプナ伝説は6世紀終わりころに設定されており、まだこの時代には、アイランド全体がキリスト教化されていなかったようです。ディンプナの父親は、アイランド北部の小領土の王であり、異教徒ということになっています。異教徒なら、家来からすすめられて自分の娘と結婚する近親相姦への嫌悪感はなかった、というわけです。一方、母親はキリスト教徒であり、娘ディンプナは司祭のゲレベルヌスから洗礼を受けていました。このように、王と家来が異教徒で、王妃と娘がキリスト教徒という対立構造が話の根底にあります。異教徒の欲望から逃れるために祖国から脱出し、罪に汚れるよりは殉教の道を選ぶのです。ここにはキリスト教の異端宗教への勝利が描かれているでしょう。

二つ目のポイントは、ゲレベルヌスとディンプナの遺体の扱いは、中世ヨーロッパの聖遺物信仰の高まりを表現していることです。中世ヨーロッパでは、聖人の遺骨や聖人にゆかりの品々、つまり聖遺物には奇跡的な治癒力が備わっていると考えられていました。各地で競い合うようにして聖遺物が発見され、売買されました。聖遺物がまつられた

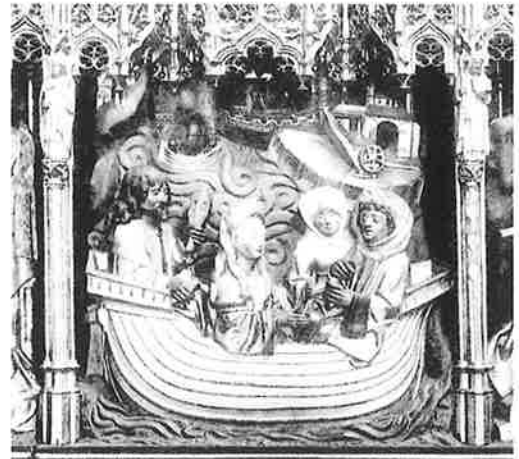


図1 船で逃亡するディンプナとゲレベルヌスたち
(ゲールの聖ディンプナ教会内のレリーフ、
16世紀の作品)

出典：Rijkskolonie te Geel

(「ゲール国立コロニー」のパンフレット、年代不詳)

場所には巡礼者が集まり、そこは巡礼地としての繁栄を約束されるのです。粗末な棺に納められた聖遺物があれば、もっとりっぱな棺や祠に安置するために、別の場所に移すことも推奨されました。そのような目的であれば、聖遺物が持ち去られることは盗難ではなく、聖人にとってはむしろ満足すべきことで、価値ある行為ですらあったのです。ゲレベルヌスとディンプナの聖遺物が別の棺に移されたこと、クサンテンの住民がその聖遺物を盗んだことも、当時の価値観を反映しているようです。なお、ゲールの聖遺物盗難の話は事実で、10世紀の中ごろにゲレベルヌスのものとされる聖遺物が現在のドイツ、ノルトライン＝ヴェストファーレン州のクサンテンにもたらされたようです。後に聖遺物はクサンテン郊外の街ゾンスベックに移され、いまもここに聖ゲレベルヌス礼拝堂が建っています。



図2 聖ディンプナのイコノグラフィー
(15世紀末の作品)

出典：Koyen MH (1973)
Gezinsverpleging van geesteszieken te Geel tot einde 18de eeuw. Jaarboek van de Vrijheid en het Land van Geel 12

さて、聖ディンプナ伝説を見てわかるように、精神病に特別に関わるような記述はありません。聖遺物の万能の治癒力を信じて巡礼者がゲールに殺到したのはわかりますが、なぜとくに精神病患者が集まる巡礼地になったのでしょうか？

中世ヨーロッパでは、聖人が特定の病気の守護聖人となることがよくあります。それは聖人の聖遺物の形状がある病気を連想させたり、聖人の名前がある病気と似ていたり、といった単純な理由であることが少なくありません。聖ディンプナと精神病とのつながりは、伝説の内容から来ていると言われています。つまり、悪魔にとり憑かれた父親が娘ディンプナとの結婚を吹きこまれ、狂気に駆られて娘を処刑したが、彼女は殉教することで悪魔を克服した、という解釈が生み出されたのです。この当時、悪魔にとり憑かれることが、狂気（今でいう精神病）の大きな原因の一つだと考えられていました。

こうして聖ディンプナが精神病の守護聖人になったのは、遅くとも15世紀ごろではないかと思われます。それは、この時期までに定着してくる聖ディンプナのイコノグラフィー（聖像）から推察できます（→図2を参照）。王家の出身を示す冠を頭にのせた聖ディンプナは、足もとで悪魔を踏みつけています。さらに、彼女自身の処刑に使われた剣を持ち、その先端で悪魔の頭を突き刺しています。狂気を象徴している悪魔を退治している構図と理解できます。また、15世紀はじめの免償状（いわゆる免罪符）の記述からは、この時期のゲールに多くの精神病患者が巡礼に訪れていたことがわかります。1412年に教会が発行した免償状には、ゲールで貧しい精神病患者に施しをする者に100日間の免償が与えられること、その年にゲールを訪れた多数の巡礼者のほとんどが悪魔にとり憑かれた者であり、多くが回復したと書かれています。

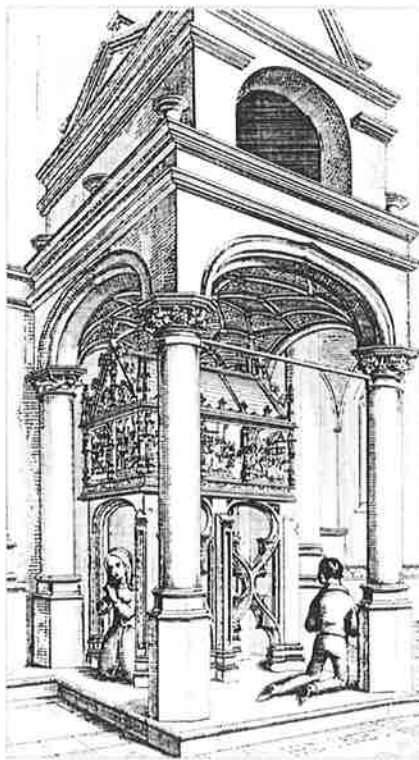


図3 聖遺物が安置された棺の下をくり抜ける儀式

出典：Kuyil PD (1863)
Gheel vermaerd door den eerdienst der Heilige Dymphna

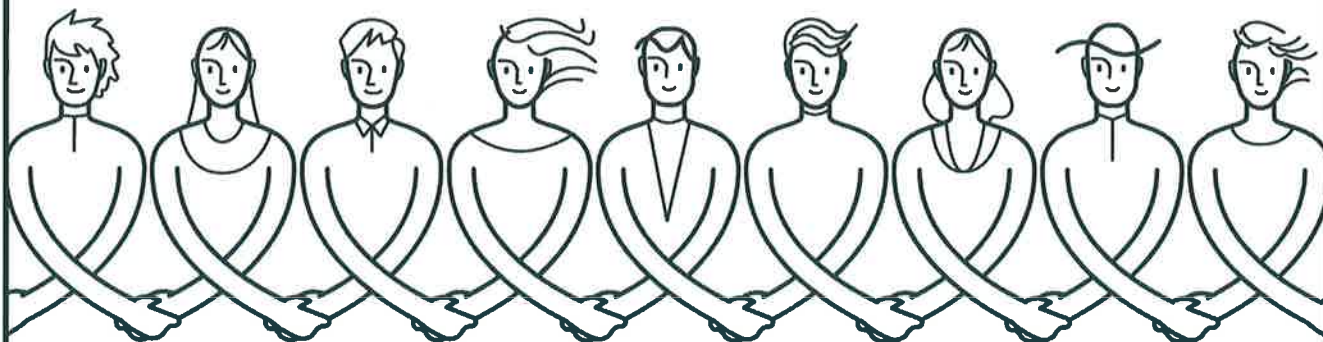
ところで、巡礼地としてのゲールの目的地は、聖ディンプナ教会です。聖遺物はその周囲に「聖なる力の場」を生じさせ、それが病気を癒すのだと考えられていたので、教会内に安置された聖ディンプナのもとのされる聖遺物を崇めることが治療でした。通常、治療は9日間の儀式として行われました。これを「ノベナ」と称しています。ノベナとは「9」を意味する言葉です。病者は教会に隣接する病人部屋と言われる宿泊所に寝泊まりしながら、ノベナを行ったのです。しかし、巡礼者が殺到すれば病人部屋に泊まることができず、教会周辺の民家に滞在して部屋が空くのを待つか、民家に滞在しながらノベナに通うといったことも行われていました。

聖遺物を崇拜するために具体的に何をするかと言えば、まず1日3回、病者は教会の中または外を歩くことになっていました。さらに、1日3回、教会内の祭壇後部の中空に固定された、聖遺物が安置された棺の下を裸足で這いながらくり抜け、「我らが父よ」と30回、「アヴェ・マリア」と30回唱えるというものでした（→図3を参照）。また、聖職者による悪魔払いも行われました。悪魔払いの呪文を聞いている間、病者は聖ディンプナ伝説にも登場する「赤い石」を首にぶら下げることになっていました。

今から考えると、ノベナの治療効果には疑問があるでしょう。しかし、病が癒えて、ノベナの「記念バッジ」を与えられて、故郷に戻っていった巡礼者も多かったと言われています。しかし、1回目のノベナで治癒しないときは、2回、3回と繰り返し行われました。さらに、ノベナを終えたあとも、教会周辺の民家に滞在し続けた巡礼者もいました。ノベナで得られた治癒の効果が続くかどうか見極める、という理由があったようです。このようにして、巡礼でゲールを訪れた病者と教会周辺の民家とのつながりが徐々にできあがり、ごく自然に精神病患者を長期間預かるというしくみが発展してきたと考えられます。現在に続くゲールの精神障害者の里親制度の原点がここにあります。（第2話につづく）

Lilly

ひとりひとりの輝くあしたへ。



いっしょに、道を広げましょう。これまでも、これからも。

イーライリリーは精神科医療の向上と、
精神障害に対する「偏見」や「差別」を
なくすための活動を支援してゆきます。

www.schizophrenia.co.jp

(統合失調症に関する一般の方向けサイト)

リリーの情報はインターネットでご覧になれます。<http://www.lilly.co.jp>

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7-1-5



これまでも、これからも、
「患者思考」

患者さんのことを、自分のことのように考えると、
見えてくるものがあります。いまだ満たされて
いない患者さんのニーズに応えるために何が
できるか。何を優先すべきか。

私たちヤンセンファーマは、その最善の答えを
導いていくため、これからも挑戦を続けていきます。

ヤンセンファーマは、CNS (中枢神経系)、真菌症、鎮痛・麻酔、がん領域の
リーディングカンパニーを目指す、
「ジョンソン・エンド・ジョンソン」グループの製薬会社です。



ヤンセンファーマ株式会社

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-5-2 <http://www.janssen.co.jp>

一緒に歩こう、笑顔へ続く道。

All for your smile

統合失調症の患者さん、
ご家族、そして支援する
みなさまの笑顔のために。
大塚製薬は、これからも
精神医療に貢献していきます。



統合失調症情報局
「すまいるナビゲーター」は、患者さんやご家族を
対象に、統合失調症の病気や治療、
社会参加のために役立つ制度の
ことなど、知っているのと役に立つ
情報を発信するサイトです。

[すまいるナビゲーター](#)

[検索](#)

All for your
smile



Otsuka 大塚製薬株式会社

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

「Life」を支える力



サノフィ・アベンティスは、
医薬品およびワクチンの
研究開発を通じ、
可能な限り多くの人々の生活の
質の向上に取り組んでいます。

サノフィ・アベンティス株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 東京オペラシティタワー www.sanofi-aventis.co.jp

sanofi aventis

Because health matters

伝言板

こころの会 例会

日 時…平成22年6月13日(日) 13:00~15:00
 場 所…県立男女共同参画センター研修室B
 (JR近江八幡駅南口 徒歩10分)
 内 容…現在悩んでいること、薬のこと、病気のこと、等
 申込み…「こころの会」蒲生郡日野町木津192(事務局代表 吉澤康雄)
 TEL/FAX 0748-52-2918 (この会は患者会です)

平成22年度 滋賀県精神保健福祉協会 総会(予定)

日 時…平成22年5月下旬~6月中旬頃 平日の15時頃~
 場 所…滋賀県立精神医療センター 1階研修室
 内 容…1.平成21年度事業報告
 2.平成21年度決算報告
 3.平成22年度事業計画、予算
 4.平成22年度活動方針(案)
 5.新理事のご紹介、その他

※会員の皆様には、日程決定後お知らせいたします。

ピアサポート・ピアカウンセリングを考える市民フォーラム ピアサポートフォーラム2010 ~ひろげよう! 優しい気持ちと思いやり~

日 時…平成22年6月19日(土) 14:00~16:30(受付13:30~)
 場 所…滋賀県立男女共同参画センター「視聴覚室」
 (JR近江八幡駅 徒歩7分)
 内 容…■お話し「広げよう! ピアサポートの輪」
 辻本哲士氏 (滋賀県立精神保健福祉センター所長)
 ■ピアサポーターによるミニシンポジウム
 ピアサポート活動の紹介や情報交換・意見交換
 資料代…200円(優しい気持ちのおみやげ付き!)

定 員…100名
 連絡先…NPO法人サタデーピア
 〒522-0054 彦根市西今町1327 TEL 0749-23-6679



平成21年度滋賀県精神保健福祉協会表彰受賞者

〈お名前〉	〈所 属〉	〈職 名〉	〈お名前〉	〈所 属〉	〈職 名〉
あじさいの家共同作業所	共同作業所	共同作業所	是 洞 貞 造氏	長浜青樹会病院	准 看 護 師
池 内 和 彦氏	水 口 病 院	看 護 長	堤 和 代氏	長浜青樹会病院	看 護 師
今 井 ゆふ子氏	水 口 病 院	ケアワーカー	成 田 実氏	豊 郷 病 院	医 師
牛 谷 佳 美氏	長浜青樹会病院	看 護 師	長 谷 みえ子氏	水 口 病 院	ケアワーカー

(アイウエオ順、所属、職名はH21年7月時点のものです)

上記の皆様は、平成21年7月5日に大津市民会館で開催された「こころの健康フェスタ2009」にて、表彰されました。おめでとうございます。

編集後記

◆ お彼岸を過ぎてから、ことのほか寒い日が続きました。寒暖の差が大きく、体調の管理に苦労された方も多かったのではないのでしょうか。2月までの陽気で咲き急いだ桜が、その勢いのまま開花してしまったものの、この寒さでとどまっているように思えます。おかげで花見の期間は例年より長くなりそうですとのことです。

◆ アメリカ上院で医療保険制度改革法案が3/21ようやく可決されました。アメリカでは国民皆保険制度がなく、4千万人を超える人達が無保険状態でしたが、これでようやく国民の9割が保険に入れることになったそうです。中低所得者に様々な補助をおこなって保険加入を義務づけ、保険会社にも加入拒否ができないよう規制を行うらしい。自己責任を重視するアメリカでは、社会主義化に懸がるという批判も根強いそうです。

◆ 日本では国民皆保険制度が当たり前のようになっていますので、このようなアメリカのドタバタは理解しにくいですが、逆に日本の国民皆保険制度の良さが際立ちます。日本の医療保険制度の特徴は、国民皆保険、現物給付、フリーアクセスなどです。つまり保険証一枚で、全国どこの医療機関でもかかることができ、現物給付(医療サービス)を受けることができます。しかも自由開業医制度のもとで緩やかな競争原理が働いていますので、極めて低コストで優秀な専門性を確保しています。

◆ 進行する医療崩壊が、政権交代によってくい止めることができるかも知れないと、少しは期待をしてH22年度診療報酬改定を見守りましたが残念でした。あるべき医療の姿を論じることはなく、財源論に終始しました。財務省の設定した枠の中で、外来医療を削って入院医療に充てるというおそまつ。勤務医と開業医を対立させ、勤務医のみならず開業医の医療崩壊も進める内容ですっかり幻滅です。

◆ 子ども虐待のニュースが連日のように新聞紙面ににぎわっています。私たちの社会の抱える貧困や孤立が、子育てを巡るイライラや不安感を増殖させているように思います。子育ては社会全体の責任であるとして提案された、子ども手当法案が3/29に可決されました。子育て世代に安心や余裕を与えることができると良いのですが、複雑な要因のからみあった児童虐待という社会現象を医療の枠の中でのみ語るのには危険ですが、虐待する側、虐待される側双方における病気や障害について、精神科医療の果たす役割は大きいと思います。
(滋賀県精神神経科診療所協会 上ノ山)

会員数

平成22年3月15日現在

一般会員	個人会員	157名
	団体会員	36団体
賛助会員	個人会員	9名
	団体会員	11団体